R6 ドイツ国際研修(8/26-9/5)　事後レポート

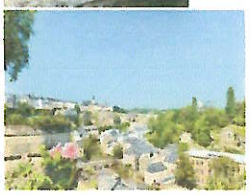
N2-1

参加理由

外国の暮らしや文化を実際に行って体験したかったからです。また、ホームステイや学校交流など現地の人と関わることで語学力やコミュニケーション能力の向上を目指して自分の現在の力を試してみたかったからです。

ホストファミリー

家族はマリーと妹のアナとお母さんの3人です。
夕食時に日本語とドイツ語の勉強をしたり、UNOをしながら色や数字を教えあったりしました。箸を使ってご飯を食べたり、ピザを作ったり、散歩をしながら木に生っている果物を食べたり、丘の上で草笛を練習したり、一緒に色々なことをしました。夜9時くらいになっても外が明るいので外出することが多くアクティブな印象を受けました。フェアウェルパーティーの後には家で家族みんなに浴衣を着付けしました。「華やかで素敵、初めての経験で心が踊っています」と喜んでもらえて良かったです。



ルクセンブルク

休日にはホストファミリーとルクセンブルクに行きました。
簡単に車や電車で隣国に行ける内陸国の魅力を感じました。首都ルクセンブルク市の旧市街と要塞が世界遺産に登録されています。世界一裕福な国と言われているらしく、公共交通機関を無料で使用できるということに驚きました。ボックの砲台からの景色は絶景でした。

トリーア

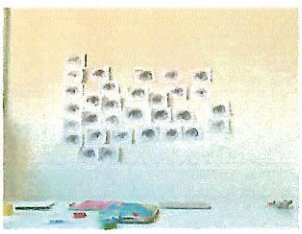
ドイツ最古の都市であり、様々な遺跡が点在していました。ポルタニグラやカイザーテルメンなど古代ローマ時代に作られた建造物をこの目で見ることができてタイムスリップしたような気分になりました。
トリーア散策ではショッピングをしたり、現地校の学生とも交流することができて楽しめました。

現地交流

マックスプランク・ギムナジウム校では英語と美術と生物と体育の授業に参加しました。全て英語での授業は難しかったけれど新鮮で楽しかったです。
ライン川クルーズやピクニックもしました。フェリーからたくさんの城を見ることができました。個人所有の城もあるが、ホテルとして泊まることができる城もあるということを知って驚きました。ニーダーヴァルト記念碑は思っていたよりもずっと大きくて圧倒されました。

ポルタニグラ

カイザーテルメン


美術の授業

生物の授業

フェリーから見える城

ニーダーヴァルト記念碑

レジデンツ

私が今回の研修で1番心に残っている建物は世界遺産ヴュルツブルクのレジデンツです。レジデンツとは宮殿という意味だそうです。どの部屋もとても美しくて感動しました。階段の間の天井画はティエポロの作品で一枚絵としては世界最大を誇っています。四大陸が描かれていてそれぞれを代表する動物が描かれていたり、画家・建築家・漆喰彫刻家もこっそりと絵の中に紛れ込んでいるというのが面白いと思いました。描かれてから1回も塗り直されていないにも関わらず綺麗な発色で残されていました。皇帝の間は大理石風に彩色された柱が可愛らしく素敵でした。本物の大理石を使うと重くなってしまうのでどうにか工夫してここまで美しい仕上がりにする努力が凄いなと思いました。白の間は前後の部屋がきらびやかなため、あえて白の漆喰で壁も天井も飾られていて上品な印象でした。鏡の間は金と鏡で装飾された豪華絢爛な部屋となっていました。

←左から
入口前の広場
階段の間の天井画
皇帝の間
白の間
鏡の間

ノイシュヴァンシュタイン城

この城はルートヴィヒ2世の理想の世界・夢の城を造ろうとしたけれど無念にも完成を見ることなく亡くなってしまったという話を聞き、美しくも悲しい印象を抱きました。“白鳥城”という別名をもつ白で落ち着いた雰囲気の外装とは違って、意外にも内装は華美で驚きました。音楽家ワーグナーのオペラ作品がモチーフになっているであろう部屋もありました。

ローテンブルク

おとぎ話の中に迷い込んだような可愛い建物が並んでいて歩いているだけでも気分が上がる街でした。テディベアのお店やクリスマス雑貨のお店などヨーロッパを感じられて楽しかったです。

ベルリンの壁

フランクフルトのゲーテハウス近くで本物のベルリンの壁の一部を見ることができました。歴史の教科書に載っているような世界的に重要な出来事の一部を実際に見れて感慨深いものがありました。

0ユーロ札

2ユーロで0ユーロ札を買うという経験をしました。お金としての価値はないけれど記念になりました。ホストファミリーが持っている0ユーロ札を見せてくれてユーロ圏では場所によって種類があると教えてくれたので各地を巡って集めてみたいです。

今後に向けて

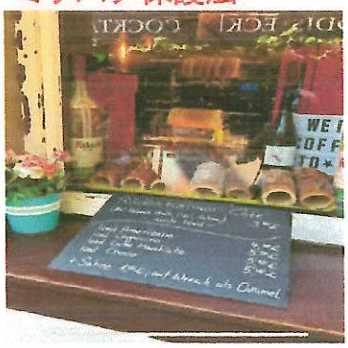
今回の研修はホームステイをしたり世界遺産を見たり本当に貴重な経験でした。異文化に触れて色々なことを感じ考えることで自分の成長に繋がる良い機会になったと思います。ホームステイやお店などでの現地の人との会話を通して自分の英語力、コミュニケーション能力は伸びしろしかないことに気付かされました。この経験を糧に英語の勉強、積極性、異文化理解など様々な面で活かしていけるようにしたいです。

R６ドイツ国際研修(8/26～9/5)　事後レポート　N2-1 [redacted]

参加理由

2年に1度のドイツ国際研修は、國學院栃木中学に入学した時からの夢でした。学校交流やホームステイ体験、市内研修を通してヨーロッパの生活文化を知りたいと思ったからです。

ミツバチ保護法



ドイツではミツバチに関して厳しい保護法があります。ミツバチは非常に重要な受粉者なのでドイツでは特に保護されています。ミツバチを意図的に殺そうとするのはダメですが、追い払うこと自体が違法というわけではありません。街中では右の写真のように人に近づけさせないようにレストランの前にジャムが置いてあり、店のショーケースの中にも無数のミツバチが群がっていて驚きました。

ネルトリンゲン

約1500万年前の隕石の落下によってできたクレーターの中に発展した歴史ある街です。直径1㎞という小さな円形になっています。「進撃の巨人」のモチーフになったと言われている場所です。バルティンガー門から赤い屋根が続く街並みを見ると、市壁が街を丸く囲んでいるのがわかります。中世の世界にタイムスリップした気持ちになりました。

ポルタ・ニグラ

古代ローマ時代(186~200年)にかけて築かれた城門、トリーアのシンボルのポルタ・ニグラはラテン語で「黒い門」という意味があり写真のように外壁が黒い石でできています。1986年にユネスコの世界遺産に登録されました。ポルタ・ニグラが作られた時代背景を考えると、完全な形で現代まで残っていることが奇跡的で、長い歴史の重みを感じることができました。

ノイシュバンシュタイン城

ルートヴィヒ2世が精魂を込めて作った白亜の城、ドイツ語で新白鳥石を意味するノイシュバンシュタイン城の内部には、黄金に彩られた玉座の間やワーグナーのオペラ「タンホイザー」をヒントに造られた洞窟など、芸術を愛した王の想いが詰まった城内を見学しました。一見すると、中世の時代の古城の様ですが、19世紀に鉄筋やコンクリートを使って近代的な技術で建てられました。ルートヴィヒ2世は、この城を完成させる前に王位を剥奪され謎の死を遂げたと知りました。

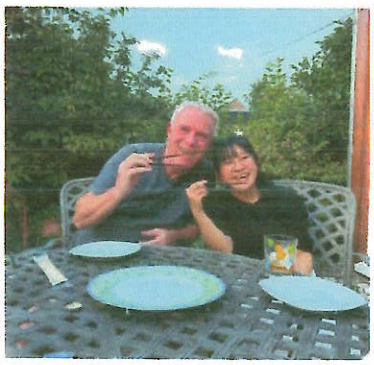
また、ペラート渓谷にかけられたマリエン橋からの絶景は、22年前に両親が訪れた時と変わることなく、この地に私が国際研修で訪れ、現在のノイシュバンシュタイン城を見ることができとても感動しました。

＊上が現在の城とQRコードの入場チケット、
下が22年前の改修中の城とバーコードの入場チケット

学校交流・授業参加

マックス・プランク・ギムナジウム校では美術と生物の授業に参加しました。美術の授業は、ドイツ語の言葉の壁をあまり感じることなく「眼(Auge)」を描くことができました。生物の授業では、「ボトルガーデン」を作りました。生物(昆虫)と植物を半密閉状態のボトルに入れ、この中で土や葉の表面から水分が蒸発し水滴になって土に吸収され再び植物の根から吸い上げられる。この循環が繰り返されボトルの中で生態系が出来上がる仕組みになっています。ドイツ語での授業は難しかったけれど、体験型の授業でとても興味深く、ボトルの中に小さな森ができた様でした。世界には、40年以上維持しているボトルガーデンもあると知り、これからどう成長していくのか楽しみになりました。

ホストファミリー



ホストファミリーの自宅は学校から車で約1時間、葡萄畑が一望できる自然豊かな場所にありました。家族はリナとお姉さんとお父さんの3人と猫2匹です。朝食は近くのパン屋さんで毎朝好きなパンを買って車内で食べました。ドイツのパンはとても美味しくて、中でも一番好きなパンはプレッツェルです。夕食はジャガイモとソーセージ、お肉がメインのドイツ料理でした。私は日本の食文化を紹介するために、リナと一緒にいなり寿司を作りました。ホストファミリーは魚を食べないと聞いたので握り寿司ではなくて、甘いいなり寿司を選びました。味の好みが合って3人にとても美味しいと喜んでもらえて良かったです。またお箸の使い方も一緒に紹介することができました。

休日には、ホストファミリーと隣国のルクセンブルク大公国に行きました。シューバーフーアーと言う600年以上の歴史を持つ伝統的な移動遊園地の夏のお祭りを楽しむことができました。学校交流最後のフェアウェルパーティーでは、リナに浴衣の着付けと盆踊りを教えることができました。ただ、浴衣は素敵だけれど少し動きづらいという感想をいただきました。

よく使うドイツ語は、Danke/ありがとう Bitte/どういたしまして。Ja/はい。こんにちは！の挨拶は、Guten Tagよりもドイツ語の Hallo だったり、Ciao! でした。

ルクセンブルク大公国

フェアウェルパーティー

ドイツの伝統グルメ

ドイツの寿司

いなり寿司

今後に向けて

ドイツ国際研修は、学校交流やホームステイ以外にも世界遺産を巡ることができ、とても濃密で貴重な時間を過ごすことが出来ました。現地の学生はとても気さくで、授業に参加した時もすぐに仲良くなり打ち解けることができました。ホームステイは2回目なので、ホストファミリーと英語でコミュニケーションを取る時に、今まではどうしても日本語を考えてから英語に変換しようとしていたので、今回は知っている英語の表現を簡単に繋いで、すぐに意見を伝えられるように意識しました。ホストファミリーには、日本の文化を紹介することができ、そしてドイツの文化を学べたことはとても有意義だったと思います。また、海外研修に参加して思うことは、訪問する国の歴史や文化を事前に勉強しておくことがとても重要だと言うことです。さらに、自分の英語力はまだまだ不足しているので、もっと英語力に自信が持てるように日々勉強を頑張りたいと思いました。

R6 ドイツ国際研修(8/26-9/5)　事後レポート Sコース2年

参加理由:ヨーロッパの文化や芸術、ホームステイには元々興味があり、タイミングも考えると最高のチャンスだと思ったから。

主な活動

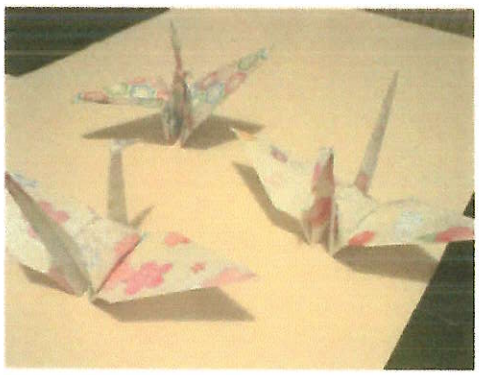
- ホームステイ(2～6日目)
- 学校交流,授業参加(3日目)
- ハイキング(4日目)
- フェアウェルパーティー(5日目)
- 観光
  - フランクフルト(2日目)
  - トリーア(5日目)
  - ヴュルツブルク(7日目)
  - ローテンブルク(8日目)
  - ミュンヘン(9日目)

学校交流・授業参加

ホストファミリーに誘導してもらい、一緒に美術、生物、体育の授業に参加しました。10時頃に間食を摂る時間"スナックタイム"は日本にない制度で新鮮に感じました。発言などの自主性が成績に大きく関わると小耳に挟み、私は自分から発言するのが得意では無いので、もし海外の学校に行っていたら発言が得意になっていたのかなと想像してしまいました。また、小学校高学年から高校生まで同じ校舎にいるため休み時間はとても賑やかで楽しい雰囲気でした。

ホームステイ

ホームステイはずっといつかしてみたい学生の特権である貴重な体験だと思っていたため、5日間という短期間ではありましたが、本気で楽しみ、コミュニケーションをちゃんと取れるように頑張りました。普段日本にいると英語でずっと話すという機会はほとんどないため、最初は話しかけられて聞き取ることは出来てもそれに対して返答するのが難しく、翻訳を使用したり曖昧な返しをしたりしてしまいましたが、細かい文法や語彙を気にしすぎずとりあえず会話することを意識したら段々とスムーズに話せるようになり英語を使うことに少し自信を持つことが出来ました。来年の4月にはホストファミリーが日本に来るので、今回よりも翻訳なしでスムーズに話せるように勉強を頑張りたいと思いました。
ホストファミリーの住んでいる村は学校からバスで40～50分くらいかかる場所で毎朝一緒にバスで学校まで行きました。自然に囲まれていて静かで、でも賑やかで近隣同士仲の良い雰囲気がとても綺麗な場所でした。
終日フリーの日には、ホストファミリーがルクセンブルクに連れて行ってくれました。車に乗っていたら急に「ルクセンブルクに入ったよ！」と言われ、他国と陸続きであることやパスポートなしに国境を越えられることに、改めてヨーロッパ(EU)の凄さを感じました。ドイツは歴史的な建造物が多く、ほとんどの人が想像するようなヨーロッパの風景であるのに対し、ルクセンブルクは近代的に感じる部分が多くありました。また、ルクセンブルクは公共交通機関が無料で簡単に使用できることに驚きました。夜には一緒にお好み焼きを作ったり、折り紙を折ったりしました。日本文化に興味を持って一緒に作ってくれて嬉しかったです。家での異文化交流はまさに私が想像していたホームステイの醍醐味で、食文化を共有したり住居の違いを知ったりできて楽しかったです。



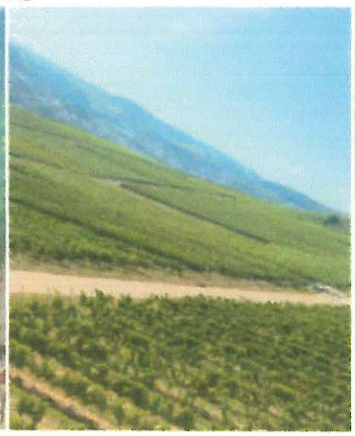
フェアウェルパーティー

フェアウェルパーティーでは、浴衣の着付け、ドイツ語の歌、日本文化紹介をしました。どれも事前に念入りに準備して行ったので思い入れがあります。
特に浴衣は出国前に数回練習はしましたが不安が残っていたため、綺麗に着付けできて本当に安心しました。名入れした扇子をプレゼントして一緒に写真を撮ったのが印象に残っています。
また、日本文化紹介では短い時間で和食の魅力を伝えるために有名な料理の話をするのではなく、和食の魅力の本質に近づけるような話題を意識しました。普段出会わないような少し専門的な語彙が多く読むのに苦戦しました。

観光

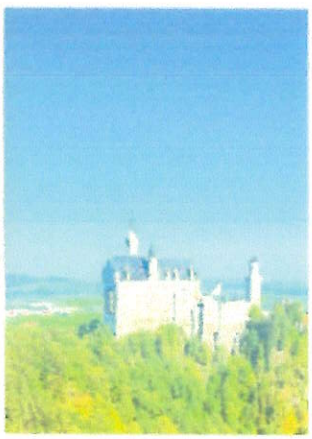
ドイツは宗教に対する考え方や芸術様式が日本と全く違っていて、街の至る所に教会があり、それらのどれを見ても建築や装飾品などに特徴があり興味深いものでした。特に今でも使われるというパイプオルガンは教科書でしか見た事がなかったので圧巻の迫力でした。また、戦争時に美術品や重要な建造物の一部を疎開していて今でもオリジナルの部分も多いことを初めて知り、調べてみると日本でもそのような取り組みがされていたようで驚きました。歴史には疎いですが、フランクフルトのゲーテハウス付近にあるベルリンの壁の一部の展示など教科書でよく見るものを実際に目にすると本当に興奮しました。調べると下の写真の方が旧西ドイツ側で裏側が旧東ドイツ側らしく、裏ももっとよく見ればよかったと少し後悔しています。歴史をもっと詳しく勉強していれば他にも沢山楽しめるポイントがあったのかもしれないと思いました。

△ベルリンの壁(一部展示)



△ぶどう畑

△ヴュルツブルク・レジデンツ（世界遺産）



△ノイシュバンシュタイン城

感想・今後に向けて

今回のドイツ研修はこれまでの海外研修に比べて期間が長く、ホームステイもあったため英語を使う場面が多くあり、普段教科書や単語帳を見つめるだけでは学べない日常的な表現や語彙まで学ぶことができ、またこれから学ばなければいけないことなど課題も見つけることが出来ました。来年の4月は翻訳を使わないでもっと沢山話そうというホストファミリーとの約束を果たすため、これまで逃げてきた英語の勉強も地道に続けていきたいです。また、自分には積極的に話しかけたり話題を振ったりするコミュニケーション能力が足りていないように感じました。気づいたらずっと相槌を打つだけになっていたので、日常的に意識していきたいです。今回の海外研修が時期を考えると最後ですが、昨年度12月の韓国研修、3月のシンガポール研修、そして今回のドイツ研修と3回の海外研修に参加し、異文化に沢山触れて海外の良さ、日本の良さを身をもって実感することができました。これらの貴重な経験を役立てるためにも、これから様々なことに挑戦していきたいです。